

◎2025 年秋 訓点語学会(オンライン)開催に伴う 特別販売《20%引》

平安時代の佛書に基づく漢文訓讀史の研究 全十冊完結

訓点語学会オンライン開催に伴い、全十冊が完結しました『平安時代の佛書に基づく漢文訓讀史の研究』ほか関係書籍を【学会会場販売価格】20%引にてお届け致します。お申込みは、FAX 注文書・Eメールにて直接小社までお申込み下さい。

お届けは受注後2～5日以内に宅急便にてお届け致します。時間指定も可能です。

◆私費はじめ、科研費・図書館・研究室など公費でのご注文も承ります。

◆購入総額一万円以上は送料・振込手数料サービス。未滿は送料実費 430 円～700 円と振込手数料が必要です。

株式会社汲古書院 営業部

FAX 注文書 FAX:03-3222-1845 汲古書院営業部行

お申込み日： 年 月 日

書 名	著 者	刊行年	定 価	学会価格	注文部数
訓讀語要語索引〔平安時代の佛書 10〕	小林芳規	2025 年 7 月	14,300	11,440	
敘述の方法 〔平安時代の佛書 1〕	小林芳規	2011 年 3 月	13,200	10,560	
訓點の起源 〔平安時代の佛書 2〕	小林芳規	2017 年 12 月	14,300	11,440	
初期訓讀語體系 〔平安時代の佛書 3〕	小林芳規	2012 年 2 月	24,200	19,360	
中期訓讀語體系 〔平安時代の佛書 4〕	小林芳規	2012 年 9 月	19,800	15,840	
後期訓讀語體系 〔平安時代の佛書 5〕	小林芳規	2013 年 10 月	33,000	26,400	
傳承と傳播 〔平安時代の佛書 6〕	小林芳規	2016 年 1 月	26,400	21,120	
變遷の原理 〔平安時代の佛書 7〕	小林芳規	2017 年 4 月	33,000	26,400	
加點識語集覽 〔平安時代の佛書 8〕	小林芳規	2018 年 8 月	18,700	14,960	
訓點表記の歴史 〔平安時代の佛書 9〕	小林芳規	2019 年 6 月	17,600	14,080	
前田本色葉字類抄の音注研究 全二冊	二戸麻砂彦	2024 年 12 月	55,000	44,000	
日本、中国・朝鮮対外交流史年表	田島 公	2025 年 4 月	7,700	6,160	
風土記文字表現研究	奥田俊博	2024 年 2 月	7,700	6,160	
宣命体の研究	馬場 治	2023 年 2 月	15,400	12,320	
平安鎌倉時代における日本漢音の研究 全二冊	佐々木 勇	2019 年 1 月	49,500	39,600	
訓點・訓讀・音義〔小林芳規著作集 7〕	小林芳規	2025 年 4 月	13,200	10,560	
典籍解題 〔築島裕著作集 7〕	築島 裕	2024 年 11 月	16,500	13,200	

※その他、ご希望書籍がございましたらお知らせ下さい。

お名前

〒

TEL

ご住所（お届け先）

購入区分：私費／公費（書類の宛名・必要通数をご記入ください。）

日付：要・不要

書類の宛名：

見積書 通・納品書 通・請求書 通

平安時代の漢文訓讀史の研究 全十冊

佛書に基づく

広島大学名誉教授 小林芳規 著

第十冊 訓讀語要語索引 [第十回配本] ▼A5判・396頁・定価 14,300円 2025年7月刊

本第十冊『訓讀語要語索引』は、「語彙索引」「事項索引」「第八冊『加點識語集覧』書名索引」「第八冊『加點識語集覧』僧名・僧房名索引」の四部より成る。それぞれ採録範囲や所在の表示法等について、以下のとおり、個別に凡例を設けて方針を示した。

【内容目次】

凡例

語彙索引 川野繪梨 編

第八冊を除く、第一冊～第九冊に出現する古訓点資料等から引用された例文の中に見られる語彙（和訓・字音）のうち、主要なものを採録した。

事項索引 山本真吾 編

第八冊を除く第一冊～第九冊に出現する人名、国語事象に係る用語等を主たる対象として採取し、これを五十音順に配列した。

第八冊『加點識語集覧』書名索引 小林芳規 編

第八冊『加點識語集覧』僧名・僧房名索引 小林芳規 編

第八冊「加點識語集覧」の奥書識語等に記された僧名及び僧房名を取上げたものである。

平安時代の佛書に基づく漢文訓讀史の研究 全十冊 正誤表(一) 冊の構成及び章立の変更

平安時代の佛書に基づく漢文訓讀史の研究 全十冊 正誤表(二) 記述の字句及び用例の訂正等

後記 小林芳規

第一冊 敘述の方法 ▼A5判・368頁・定価 13,200円 2011年3月刊

緒 説／漢文訓讀史研究の課題と構想／漢文訓讀史の研究資料／漢文訓讀史の時期区分—奥書の用語に着目して—／漢文訓讀史敘述の方法 比較訓讀法—妙法蓮華經の諸點本を例として—／漢文訓讀史敘述のための訓讀語體系

第二冊 訓點の起源 ▼A5判・352頁・定価 14,300円 2017年12月刊

奈良時代の角筆訓點から觀た華嚴經の講説／日本の初期訓點と新羅經加點との關係／角筆加點の新羅華嚴經／日本語訓點表記としての白點・朱點の始原／勘經の訓讀法——奈良時代の訓讀——／日本所在八・九世紀の華嚴經とその注釋書の加點／平安初期の東大寺關係僧の所用假名と新羅經の角筆假名との關係／日本のヲコト點の起源と古代韓國語の點吐との關係／日本平安初期の訓讀法と新羅華嚴經の訓讀法との親近性／宋版一切經に書入れられた中國の角筆點

第三冊 初期訓讀語體系 ▼A5判・892頁・定価 24,200円 2012年2月刊

總 説／明詮大僧都の訓讀法／新薬師寺薬師如來像納入妙法蓮華經の平安初期訓點／平安初期の妙

法蓮華經諸點本の訓讀法／大唐三藏玄奘法師表啓—南都における訓讀法変遷を通して—／觀彌勒上生兜率天經贊—南都における訓讀法変遷を通して—／唐代説話の金剛般若經集驗記—北嶺における訓讀法変遷を通して—／平安初期の訓讀語の記述／平安初期訓點資料の類別—假名字體を手掛りに—／平安初期における訓讀語の變移／平安初期における天台宗の讀解

第四冊 中期訓讀語體系 ▼A5判・642頁・定価 19,800円 2012年9月刊

總説／寛平法皇の訓讀法／石山内供淳祐の訓讀法／慈覺大師點所用資料の訓讀法／順曉和尚點所用資料の訓讀法／石山寺經藏の平安中期古點本の訓讀法について／天台宗三井寺の訓讀法／天台宗延暦寺の訓讀法／眞言宗小野流の訓讀法／辯中邊論における眞言宗石山寺淳祐内供の訓讀法と法相宗興福寺空晴僧都の訓讀法／興聖寺藏本大唐西域記卷第十二平安中期點の訓讀法／大乘掌珍論天曆九年點の訓讀法／石山寺藏佛説太子須陀拏經平安中期點の訓讀語について／平安中期訓讀語の泯亡と繼承

第五冊 後期訓讀語體系 ▼A5判・1220頁・定価 33,000円 2013年10月刊

總説／平安後期十一世紀における妙法蓮華經の訓讀法／祖點の成立とその過程／祖點の繼承—天台宗三井寺における慶祚の祖點の繼承—／平安後期初頭における平安新興宗派の訓讀法と南都古宗の訓讀法／南都の訓讀法／天台宗比叡山の訓讀法／眞言宗小野流の訓讀法／眞言宗仁和寺の訓讀法／同一經卷に異種のヲコト點法が加點された資料における訓讀法の異同／平安後期の訓讀法の性格

第六冊 傳承と傳播 ▼A5判・888頁・定価 26,400円 2016年1月刊

第一篇 訓讀法の傳承

院政期の訓讀法の性格／宗派別訓讀比較法／不空羼索神呪心經の訓讀法／蘇磨呼童子請問經の訓讀法／聖閻曼德迦威怒王立成大神驗念誦法の訓讀法／金剛頂瑜伽護摩儀軌の訓讀法／金剛藥叉念誦儀軌の訓讀法／虚空藏求聞持法の訓讀法／訓讀法の傳承の諸系統とその性格

第二篇 訓讀語の傳播

假名書法華經に現れた訓讀語／假名書文獻に現れた訓讀語

第七冊 變遷の原理 ▼A5判・1224頁・定価 33,000円 2017年4月刊

序説／同漢字異訓の同漢字同訓化／不讀字の定訓化／和訓の音讀語化／副詞の呼應語の統一と消滅／讀添語の消滅／五つの原則に共通する原理

第八冊 加點識語集覽 ▼A5判・578頁・定価 18,700円 2018年8月刊

本冊、平安時代訓點本加點識語集覽（「加點識語集覽」）は、日本に現存する平安時代の佛書の訓點本で、加點年時・傳受年時及び書寫年時の全部又はその一部の識語を持つ訓點資料を主に蒐集して、時代別の年月日順に掲載し一覽したものである。

奈良時代／平安初期／平安中期／平安後期／院政期

第九冊 訓點表記の歴史 ▼A5判・496頁・定価 17,600円 2019年6月刊

緒説／符號から觀た新羅加點の日本の初期訓點への影響／訓點における假名字體の變遷／訓點における和訓表記の漢字／使用初期のヲコト點特殊點甲類・乙類の展開／返讀符の始源とその變遷／合符の始源とその變遷／訓點における疊符の變遷／訓點表記の變遷の原理

前田本色葉字類抄の音注研究 全二冊

研究篇・資料篇

山梨県立大学名誉教授 二戸麻砂彦 著

▼A5 判上製・研究篇 1410 頁・資料篇 1216 頁・定価 55,000 円 ISBN978-4-7629-3695-1 C3381 2024 年 12 月刊

本書は尊経閣文庫蔵三卷本色葉字類抄（通称前田本）に附された仮名音注（上巻 5,101 例・下巻 4,758 例）の分析を試みたものである。分析に当たっては、『観智院本類聚名義抄』『長承本蒙求』『承暦本金光明最勝王経音義』を中心に、また適宜他の古辞書類も援用して、当該字に附された音注の用例を示し、前田本のそれと比較・対照できるようにした。そして前田本の仮名音注が示す日本漢字音の実態を、斜体のラテン文字（いわゆるローマ字）で集約し、韻母別・声母別・声調別に表示した。色葉字類抄などの字類抄諸本の編纂過程は、概ね①いわゆる「色葉和名」の基準に基づく和訓語彙の蒐集〔分類体裁としてイロハ順の検索を採用した初期段階〕、②語彙数の増加と字音の付載〔利便性の向上を目指した増補改訂段階〕、の二段階を想定でき、増補改訂が進む中で、反切・同音字注・仮名音注が附載された。早い段階における字音の把握は、反切・同音字注で対応し、仮名音注はその後の段階で附されたと覚しい。三卷本前田本色葉字類抄に附された仮名音注は、日本語に馴化した段階を示しており、もはや呉音の特徴、漢音の特徴は区別されていない。

資料篇の【A・B・C・D】の表はそれぞれ、「番号（掲出字の原本出現順の通し番号）・所在・掲出字・仮名音注・中古音（三根谷説による推定音）・韻目（掲出字に対応する廣韻の所属韻）」から構成される。なお、廣韻にない掲出字は、中古音の推定音に（ ）を附した。

【内容目次】

【研究篇】（ISBN978-4-7629-3693-7）

1. 序説 1-1 字類抄成立以前の字書 1-2 色葉字類抄の編纂と特徴
1-3 字類抄現存諸本の関係 1-4 音注の分析方法
2. 前田本色葉字類抄の仮名音注
2-1 同仮名音注のイロハ順一覧 2-2 同仮名音注の韻母別一覧
2-3 同仮名音注の声母別一覧 2-4 同仮名音注の声調別一覧 2-5 附篇
3. 仮名音注の韻母別考察
〔Ⅰ 韻類／Ⅱ 韻類／Ⅳ 韻類／ⅢB 韻類／ⅢA 韻類／保留（廣韻不載諸例）／韻母別考察による仮名音注の対応〕
4. 仮名音注の声母別考察
〔p- 系, pj- 系（唇音）／t- 系（舌頭音・半舌音）／t̚- 系（舌上音）／ts- 系（齒頭音）／tʃ- 系（正齒音二等／齒上音）／tʃ-（正齒音三等）／k- 系, kj- 系（牙喉音）／声母別考察による仮名音注の対応〕
5. 前田本色葉字類抄の声調別考察〔平声／東声／上声／去声／入声／徳声／声調把握の実態〕
6. まとめ

【資料篇】（ISBN978-4-7629-3694-4）

- A 前田本色葉字類抄の仮名音注／イロハ順一覧 B 前田本色葉字類抄の仮名音注／韻母別一覧
- C 前田本色葉字類抄の仮名音注／声母別一覧 D 前田本色葉字類抄／声調別一覧
- E 前田本色葉字類抄／同音字注一覧・反切一覧（廣韻一致例 廣韻不一致例）

◎古代日本列島と中国大陸・朝鮮半島との具体的な交流・交渉・交易を「人」・「物品」・「交通経路」から明らかにする！
最も詳細で、見て、読む、入手困難だった、古代の「対外交流史年表」をお届けする

日本、中国・朝鮮対外交流史年表

——文武天皇元年(六九七)～建久四年(一一九三)——

東京大学名誉教授 田島 公 著

▼A4 判上製・252 頁・定価 7,700 円 ISBN978-4-7629-4243-3 C3021 2025 年 3 月刊

【凡例より】(抜粋)

- ◎この「年表」は、古代の日本と中国・朝鮮との対外関係・交流の内容を詳しく且つ一覧出来るように、上から、**西暦・日本年号、月日・記事、物品、来航者と渡航者の人名、出発地—経由地—到着地、中国年号・朝鮮年号・渤海年号**(一時期のみ)、**の各欄**を設けている。
- ◎文献史料を中心に、文武天皇元年(六九七)から建久四年(一一九三)までの間の記事を出来るかぎり網羅的に編年集成し、特に出典を明確にすることと、書籍や貿易陶磁など物品の動きや人物の往来・交流に注目して企画・作成したものである。「年表」の全体の構成、スタイルは岸俊男氏の指示により決定した。
- ◎**各年号の欄**には、天皇名を【 】内に、夫々の皇帝・国王の名を〔 〕内に記し、即位年に示した。また、元年は1年と表記した。**月日の欄**は月・日で示し、○で囲まれた月の数字は閏月を、日の部分のーは未詳を示し、更に正月は1月と表記した。なお、日付の干支は当時の暦で換算し数字の日付に直した。
- ◎**記事の欄**のうち、()内に典拠となる史料名を示した。出典の日付が、その記事と同じ日の場合は、出典名のみとした。但し、他の日付の史料が別にある場合は、出典に続けて同日条とした。
- ◎**物品の欄**では、中国大陸や朝鮮半島から日本列島に齎された物品については、その上に㊦の記号を付し、反対に日本列島から中国大陸や朝鮮半島に齎された物品は、㊧の記号を付し、その物品の動きを示した。但し、死去した使人などへの贈物は、㊨で示した。その物品が他の物品を購入・交易する際の代価であると明確にわかる場合は、㊩で示した。更に各物品の下には〔 〕で囲み、物品の数量と単位を示した。
- ◎**来航者と渡航者の人名欄**には、対外交渉・交流を実際に行った人々の氏名を示した(公的な使節での職名・資格が判る場合はそれも示した)。その際に日本人と思われる人物については〔 〕内に示した。また、その出入については、氏名の上に↑・↓の記号を付し、↑は日本列島からの渡航、↓は日本列島への来航を示した。
- ◎**出発地—経由地—到着地の欄**には、渡航または来航する人々が、どのような経路を経て、どの程度の日数をかけて航海を行ったのかを判り易くするため、それらの地名を示し、その月日が判る場合は、地名を挟んで前後に月／日を付し、夫々の地への到着日・出発日を示した。
- ◎**各欄**で、史料には明確に表れないが、他の史料・例などから推測される場合は()で示した。また、物品の欄の漢籍に関しては、釋奠や読書始・御湯殿始、改元定、年号勘文、天変勘文、天文密奏、通常の読書等に見えるものは()でその漢籍名を囲った。

【内容目次】

凡 例

年表 文武天皇元年(六九七)～建久四年(一一九三)

〔附録 所引漢籍書名一覧〕

- ①『秘府略』(天長八年〔八三一〕滋野貞主ら撰) 所引漢籍書名一覧
- ②『日本国見在書目録』(藤原佐世撰、寛平三年〔八九一〕頃成立) 所収書名一覧
- ③『弘決外典鈔』(具平親王撰、四卷、正暦二年〔九九一〕成立) 所引漢籍書名一覧
- ④『通憲入道蔵書目録』(蓮華王院宝蔵など院政期の天皇家ゆかりの文庫・宝蔵の蔵書目録か) 所載漢籍書名一覧
- ⑤京都御所東山御文庫本「宝蔵御物御不審櫃目録」(勅封三五甲一二一) 所引櫃別「漢籍」一覧

参考文献

〔あとがき等〕①旧版(一九九〇年)「あとがき」②復刻版(二〇〇九年)「追記」③増補改訂版(二〇一二年)「解題」(抜粋)
あとがき

汲古書院 〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-3 高岡ビル 4F 電話:03-3265-9764 FAX:03-3222-1845

西 暦	843	844	838 ～ 844	845
年 日 号 本	承和10	承和11	承和5 ～ 承和11	承和12
月 日	7・24	5・2 7・2 10・9	10・9	7・5 12・5 是年
記 事（『出典』）	円仁と共に入唐し、長安滞在中の惟曉、承和九年十二月一日以来、病に臥し、長安城大資聖寺において病死する。三十九歳（『入唐求法巡礼行記』）。 在唐中の入唐求法僧惟正、上都（長安）の資聖寺において『百法顯幽抄』巻一を書写する（東大寺図書館所蔵『百法顯幽抄』奥書）。 天台山留学僧円載の弟子仁好・順昌、衣糧を請うため新羅人張公靖らの船に乗り、九月に楚州を出発し、この日、長門国に到着する（『続後紀』、『入唐求法巡礼行記』会昌三年十二月条・同四年二月条）。 日本国僧惠萼、『白氏文集』巻三十三を書写する（天理大学図書館・宮内庁書陵部図書寮文庫所蔵『白氏文集』巻三十三 奥書）。 朝廷より円仁・円載の「旅資」として円載の弟子仁好に黄金二〇〇小両を付与する。仁好はこの年、再び入唐する（『続後紀』）。 難波の鴻臚館を摂津国の国府とする（『続後紀』）。 円修、唐より帰朝し、『冥道無遮斎文』一卷を将来する（『山王院蔵書目録』）。	この間、藤原岳守、大宰少弐となり「大唐人貨物」を検校し、たまに『元白詩筆』を入手し、奏上する。仁明天皇、悦び、岳守に従五位上を授く（『文徳実録』仁寿元年九月二十六日条）。 円仁、江南道常州界に日本国より来着した船が二隻あることを聞く（承和十年に円載の弟子仁好を送った廻却船か）。また、円仁、この日、これより以前に惠萼とその弟子が、李隣徳の船で日本に帰朝し（八四二年春のことか）、五臺山の年々供料を携えて再び到来したと（八四四年のことか）も聞く（『入唐求法巡礼行記』同日条・会昌六年正月九日条）。	大宰府、新羅人が康州牒二通を持ち、新羅に漂着した日本人五〇余人を伴い来着したことを伝える（『続後紀』）。 唐の刑部尚書白楽天（白居易）、洛陽城の履道坊において七叟尚齒会を行う。この会の様子を図写した「障子」が、その後、日本の朝廷に贈られ、諸卿がこれを見て、貞観十九年（元慶元年）三月、大納言南淵年名、小野山荘において尚齒会を行う（『略記』元慶元年四月八日条）。	
物 品	①『百法顯幽抄』巻一	①『白氏文集』	①『元白詩筆』（元稹と白居易の詩文集）	①『白氏文集』（金沢文庫旧蔵『白氏文集』奥書。会昌四年四月五月に惠萼が蘇州南禅院で白楽天が奉納したものを書写する）。 『白氏文集』巻七一「白氏集後記」（会昌五年五月一日付）には「其日本新羅諸国及両京人家伝写者」とある。）
↓来航者名 ↑渡航者名 （↑〔惟曉〕（病死））	（↑〔仁好・順昌〕 ↓張公靖ら26人）	（↑〔仁好〕 ↓〔円修〕）	（↑〔仁好（？）〕 ↓〔惠萼〕 ↓李隣徳（？））	（↑〔仁好（？）〕 ↓〔惠萼〕 ↓李隣徳（？））
出発地―経由地―到着地	楚州9／？―12／9長門国	（日本）―唐（江南道常州界？）	（唐）―大宰府	（日本）―（登州？）江南道常州界―（楚州？）
中国 年号	会昌3	会昌4	会昌5	
朝鮮 年号	文聖王5	文聖王6	文聖王7	
渤海 年号	咸和13	咸和14	咸和15	